

講義概要

— 2024 —



山口芸術短期大学
YAMAGUCHI COLLEGE OF ARTS

目 次

1. 芸術表現学科教養教育科目	6
2. 保育学科教養教育科目	16
3. 芸術表現学科専門教育科目	28
4. 保育学科専門教育科目	98
5. 専攻科デザイン専攻授業科目	164

シラバスの見方

シラバス（講義概要）：シラバスとは、授業に関する詳細な計画書のことです。シラバスには、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等を記載しています。

科目名	A (単位)		B		C 学科				D 年 期				担当者	E			
ナンバリングコード	F																
授業科目の取扱い	G																
卒業要件	H	免許・資格との関係	保育士	I	幼稚園教諭	I											
教科及び教職に関する科目	J																
各科目に含めることが必要な事項	J																
教科目	J																
系 列	J																
授業テーマ	K																
授業概要	L																
到達目標	M1.																
	2.																
	3.																
学修成果との関係	①	N	②	N	③	N	④	N	⑤	N	⑥	N	⑦	N	⑧	N	
履修条件・注意事項	O																
授業計画	P											到達目標	授業方法				
												P	P				
アクティブ・ラーニング	Q																
成績評価基準	R 評価の方法： 評価の基準：																
フィードバックの方法	S																
時間外の学習について	T 予習： 復習：																
教材にかかわる情報	U テキスト： 参考書： 参考資料：																
実務経験について	V																
担当者からのメッセージ等	W																

A 授業科目名と単位数を記載しています。

B 授業形態を記載しています。 講義・演習・実技・実習等。

C 学科・コース名を記載しています。

D 開講期間と履修年次を記載しています。

E 担当教員名を記載しています。

F 科目ナンバリングコードを記載しています。詳細は「ナンバリングシステムについて」で確認してください。

G 面接授業科目または遠隔授業科目かを記載しています。（※卒業要件として修得すべき単位の内、遠隔授業科目は30単位以内）

H 卒業資格を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。

I 免許・資格（受験資格）を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。

J 免許・資格（受験資格）を得るために必要な科目について必要事項・科目区分を記載しています。

K 授業のねらいやテーマについて記載しています。

L 授業のあらましを記載しています。

M ディプロマ・ポリシーに係る到達目標を記載しています。

N 卒業までに修得することが期待される資質・能力である①～⑧の「学修成果」との関係を示しています。

※詳しくは卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を確認してください。

関係性がある項目に「・」、関係性が強い項目に「○」、関係性が特に強い項目に「◎」を記載しています。

O 履修する科目の順番や条件等注意事項を記載しています。

P 授業スケジュール（各回で扱う内容等）、到達目標、授業の方法（面接・オンデマンド・同時双方向）を記載しています。

Q 主体的な学びを促進するために取り入れるアクティブ・ラーニングの、授業時間内で該当する学習形態について記載しています。

R 成績の評価の方法と評価の基準を記載しています。

S 課題等（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法について記載しています。

T 担当教員より、この授業科目の予習・復習についてのアドバイスを示しています。

U 教科書及び補助教材について記載しています。

V 実務経験をいかした教育内容について記載しています。

W 担当教員より学生に伝えたいメッセージ等を記載しています。実務経験をいかした教育内容について記載しています。

教育課程ナンバリング・システムについて

山口芸術短期大学で開講されている全ての授業科目(教養教育科目・専門教育科目・専攻科開講科目)に対し、授業内容やレベル、更に免許・資格との関連性等に応じて特定の記号や数字を付与し、教育課程表やシラバスに記載することにより、体系的な教育プログラムの実現を目指すものです。

① AB	-	② C	③ 1	23	-	456
学科等領域コード		科目区分識別コード	科目水準コード	科目識別コード		免許・資格コード

【科目ナンバリングコード 表示例】

教養教育科目「郷土史」	JA-L101-000
-------------	-------------

- 【学科等領域コード】 (表①参照) 科目を提供する学科やコース等を2文字の英文字で表しています。
 JA: 芸術表現学科及び専攻科
 JC: 保育学科
- 【科目区分識別コード】 (表②参照) 教育課程の科目区分を1文字の英文字で表しています。
- 【科目水準コード】 (表③参照) 授業レベルを1桁の数字で表しています。
- 【科目識別コード】 (表④参照) 各科目を2桁の数字で表しています。
- 【免許・資格コード】 (表⑤参照) どの免許・資格に関する科目であるかを3桁の数字で表しています。

芸術表現学科および専攻科

①(学科等領域コード)	JA	芸術表現学科および専攻科	
②(科目区分識別コード)	L	教養教育科目	
	S	専門教育科目	
	F	付加科目	
③(科目水準コード)	1	1年次開講相当科目	
	2	2年次開講相当科目	
	3	専攻科開講相当科目	
④(科目識別コード)	教養 目 教 育	01~09	教養系科目
		11~19	英語
		21~29	体育
	専 門 教 育 科 目	01~09	キャリア形成科目
		11~19	芸術表現科目
		21~39	デザインフィールド科目
		41~59	音楽フィールド科目
		61~79	情報・ビジネスフィールド科目
		81~99	総合研究科目
		000	該当なし

保育学科

①(学科等領域コード)	JC	保育学科	
②(科目区分識別コード)	L	教養教育科目	
	S	専門教育科目	
	F	付加科目	
③(科目水準コード)	1	1年次開講相当科目	
	2	2年次開講相当科目	
④(科目識別コード)	教養 目 教 育	01~09	教養系科目
		11~19	英語
		21~29	体育
	専 門 教 育 科 目	01~19	保育・教育の意義・目的、基礎・本質関連科目
		21~29	教育・保育の対象理解と理論関連科目
		31~69	保育内容・保育方法・保育技術関連科目
		71~79	実習関連科目
		81~89	総合科目
		91~99	コース専門教養科目
		100	幼稚園免許
⑤免許・資格コード	010	保育士資格	
	110	幼稚園教諭・保育士両方	
	011	保育士・リトミック両方	
	001	リトミック	
	000	該当なし	

教養教育科目

芸術表現学科

郷土史	6
美術概論	7
知的財産法入門	8
現代社会考察	9
文学	10
暮らしと法	11
暮らしのなかの科学	12
体育	13
英語コミュニケーションⅠ	14
英語コミュニケーションⅡ	15

保育学科

日本国憲法	16
知的財産法入門	17
文学	18
暮らしのなかの科学	19
情報処理	20
文書表現基礎	21
進路研究	22
英語コミュニケーション	23
体育（講義）	24
体育（実技）	25

科目名	郷土史 (2単位)	講義	芸術表現学科	1年前期	担当者	尾崎 敬子(実務経験) (単独)										
ナンバリングコード	JA-L101-000	授業科目の 取扱い	面接授業科目													
卒業要件	必修															
授業テーマ	松下村塾・至誠 山口県の歴史・文化・自然、文化財の保護と活用 プレゼンテーション、地域活性化															
授業概要	建学の精神や松下村塾について学ぶことを通して、本学での学びの動機づけを行う。 山口県内の歴史や文化、自然などについて、文化財を中心に学ぶことで地域の価値を再認識し、誇りと愛着を持つ。 各自が「ふるさと探訪」のテーマを設定して調査・研究を行い、伝わりやすい発表資料を作成する。 プレゼンテーションを行い、相互評価することで、学び合う姿勢を身につける。 文化財などの地域資源を活用し、率先して地域活性化に貢献しようとする意欲を高める。															
到達目標	1. 建学の精神について理解することで本学で学ぶ意欲を高め、文化財を通して郷土に誇りと愛着を持つことができる。 2. 山口県の歴史や文化について理解を深め、自らの言葉で語るができる。 3. 調査、研究の手法を学び、成果を資料にまとめて発表することができる。 4. 文化財を中心とした地域資源を生かして、地域活性化に取り組む意欲を高める。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	◎	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	・
履修条件・注意事項	授業の実施方法：面接授業															
授業計画						目標	方法									
	1. 建学の精神と松下村塾					1	面接									
	2. 空間軸で捉えた山口県					2	面接									
	3. 時間軸で捉えた山口県					2	面接									
	4. 山口県の国宝					1,2	面接									
	5. 山口県の重要文化財Ⅰ(建造物)					1,2	面接									
	6. 山口県の重要文化財Ⅱ(絵画・彫刻・工芸品)					1,2	面接									
	7. 山口県の史跡・名勝					1,2	面接									
	8. 山口県の特別天然記念物					1,2	面接									
	9. 山口県の重要伝統的建造物群保存地区・重要民俗文化財					1,2	面接									
	10. 山口県の人間国宝					1,2	面接									
	11. ふるさと探訪Ⅰ(テーマ設定・情報収集)					2,3,4	面接									
	12. ふるさと探訪Ⅱ(発表用資料作成)					2,3,4	面接									
	13. 文化財の価値と活用Ⅰ(発表及び相互評価)					2,3,4	面接									
	14. 文化財の価値と活用Ⅱ(発表及び相互評価)					2,3,4	面接									
	15. 文化財の価値と活用Ⅲ(発表及び相互評価)					2,3,4	面接									
定期試験																
アクティブ・ラーニング	フィールドワーク、プレゼンテーション															
成績評価基準	評価の方法：①課題レポート(10%)②授業態度・授業への参加度(10%)③調査研究・発表(40%)④定期試験(40%)により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解及び思考・判断：調査研究の成果を簡潔にまとめ、自分の言葉で表現できる。 ②思考・判断及び態度：教員の説明や他学生の発表に関心を持って聴き、疑問点は質問できる。 ③関心・意欲及び技能・表現：主体的に設定したテーマでプレゼンするとともに、互いに評価し合える。 ④知識・理解：授業に関する基本事項に関して理解し、基礎的問題に解答できる。															
フィードバックの方法	質問については適宜対応し、プレゼンは相互評価によりコメントを出し合うことで、長所や課題を認識して改善に繋げる。															
時間外の学習について	予習：各回のテーマについて事前に調べておく。「ふるさと探訪」のテーマを決め、調査・研究に取り組む。(各回90分程度) 復習：発表の資料収集及び課題レポートを作成する。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし(プリント配付) 参考書：山口県の歴史散歩(山川出版社)、山口県の歴史(山川出版社)、山口県文化財(山口県文化財愛護協会) 参考資料：山口県史及び各市町発行の市・町史、文化財関連HP															
実務経験について	高校教員(日本史)及び文化財専門員経験：文化財を通して郷土の価値に気づき、地域への理解と愛着が高まる話をします。															
担当者からのメッセージ等	文化財を通して郷土に対する誇りと愛着を持ち、自分の言葉で郷土の良さを表現できる社会人となって、地域活性化の意欲を高めていきましょう。Email:ozaki@yamaguchi-jca.ac.jp(尾崎)															

科目名	美術概論 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 前期	担当者	武田 雅行 (単独)										
ナンバリングコード	JA-L206-000	授業科目の 取扱い	面接授業科目													
卒業要件	選択															
授業のテーマ	美術史、鑑賞、表現方法、作家論、美的感性															
授業概要	優れた芸術に触れることは人間の精神をより一層豊かにしてくれる。この授業では、現代社会・文化の源流でもある古代美術から現代に至る西洋美術の歴史的な流れを中心に、様式、運動、主義、芸術概念など「美術の見方」について概説する。「美術は時代を映す鏡である」とも言われ、各時代の社会背景を踏まえた上で、作家や作品、技法の知識を得ることも視野に入れ、パワーポイント、DVD等の視聴覚機器を使用した美術鑑賞を中心に授業を展開する。															
到達目標	1. 西洋を中心とした美術の歴史の流れを理解できる。 2. 芸術の様式・主義・運動とともに各時代の社会的背景を理解できる。 3. 素晴らしい芸術作品に触れ、それらの作品や技法についての知識を習得する。 4. 学んだことをノートに記録して、美術作品への思いや、知識の定着を図ることができる。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	◎	④	・	⑤	◎	⑥	○	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 導入 授業概要の説明 西洋美術の流れ 古代オリエント美術					1,2	面接									
	2. 美術史 エジプトの美術					1,2,3	面接									
	3. 美術史 ギリシャの芸術Ⅰ					1,2,3	面接									
	4. 美術史 ギリシャの芸術Ⅱ					1,2,3	面接									
	5. 美術史 ローマ・中世の美術					1,2,3	面接									
	6. 美術史 イタリア初期ルネッサンス					1,2,3	面接									
	7. 美術史 イタリア盛期ルネッサンスⅠ					1,2,3	面接									
	8. 美術史 イタリア盛期ルネッサンスⅡ (巨匠の時代)					1,2,3	面接									
	9. 美術史 パロック・北方ルネッサンス					1,2,3	面接									
	10. 美術史 ロココ (18世紀フランス)					1,2,3	面接									
	11. 美術史 近代絵画 (新古典・ロマン・写実)					1,2,3	面接									
	12. 美術史 近代絵画 (印象派)					1,2,3	面接									
	13. 美術史 近代絵画 (後期印象派)					1,2,3	面接									
	14. 美術史 現代の美術Ⅰ (セザンヌ以降)					1,2,3	面接									
	15. 美術史 現代の美術Ⅱ (20世紀美術)					1,2,3	面接									
◎定期試験																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法：①期末試験 (配点 80%) ②ノート提出 (配点 20%) 評価の基準：①知識・理解：テキストおよび講義等での知識を扱った問題に解答できる															
フィードバックの方法	試験終了後、答え合わせとともに、解説を行なう。															
時間外の学習について	予習：テキストを読んでおく。(各回90分程度) 復習：学んだ作家や作品について更に調べ、配布のプリントにまとめる。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：『鑑賞のための西洋美術史入門』 著者：早坂優子 出版社：株式会社視覚デザイン研究所 参考書：授業の中で適宜資料を配布する。 参考資料等：															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	最終授業終了後、A4 ファイルにまとめたノートを提出。 担当者の連絡先・E-mail： takeda@y-gakugei.ac.jp (武田)															

科目名	知的財産法入門 (2単位)	講義	芸術表現学科	1年 後期	担当者	長田 和美 (単独)										
ナンバリングコード	JA-L102-000	授業科目の 取扱い	面接授業科目													
卒業要件	必修															
授業のテーマ	知的財産、著作権、特許、意匠、商標															
授業概要	自己の作品の創作や他人の作品を利用する際には、自己の権利の把握と他者の権利を尊重することが求められます。本科目では、社会人として知っておくべき、意識しておくべき教養として「知的財産」の基礎について学びます。															
到達目標	1. 知的財産の全体像を理解する。 2. 著作権、特許権、商標権、意匠権の基礎を理解する。 3. 教育・ビジネスにおける知的財産権の必要性を理解する。 4. 創作者側と利用者側の両方の立場で、知的財産権を意識して行動することができる。 5. JASRAC や J-platpat を活用して、知的財産に関する情報検索ができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	◎	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	◎	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画				目標	方法											
	1. 知的財産の全体像			1, 3, 4	面接											
	2. 著作権 (1) 著作物			2, 3, 4	面接											
	3. 著作権 (2) 著作者人格権			2, 3, 4	面接											
	4. 著作権 (3) 著作 (財産) 権			2, 3, 4	面接											
	5. 著作権 (4) 著作隣接権、二次的著作物			2, 3, 4	面接											
	6. 著作権 (5) 著作権の制限			2, 3, 4	面接											
	7. 著作権 (6) 著作権の制限			2, 3, 4	面接											
	8. パソコン演習 (1) 著作権・楽曲に関する情報検索			5	面接											
	9. 特許権			2, 3, 4	面接											
	10. パソコン演習 (2) 特許に関する情報検索			5	面接											
	11. 商標権 (1)			2, 3, 4	面接											
	12. 商標権 (2)			2, 3, 4	面接											
	13. パソコン演習 (3) 商標に関する情報検索			5	面接											
	14. 意匠権			2, 3, 4	面接											
	15. パソコン演習 (4) 意匠に関する情報検索			5	面接											
	◎定期試験 (筆記、パソコン実技)															
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法：①定期試験 (50%) ②小レポート・ワークシート・宿題レポート (50%) 評価の基準：①定期試験を通して、知識・理解を測定 ②小レポート・ワークシート・宿題レポートを通して、思考・判断、関心・意欲を測定															
フィードバックの方法	宿題レポートについては、次の講義開始時に解答例を示し解説する。 小レポート等で質問があった際には講義時に回答する。															
時間外の学習について	予習：知的財産に関するニュースや話題に目を通し、社会と知的財産の関係を理解する。(各回 90 分程度) 復習：教科書 (授業で扱った範囲) を読み、宿題レポート、ワークシートに取り組む。(各回 90 分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：「これからの知財入門 第4版」(ISBN978-4-296-20195-2)、日経BP社 参考書：なし 参考資料等：なし															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	連絡先：knagata@yamaguchi-jca.ac.jp (長田)															

科目名	現代社会考察 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 前期	担当者	尾崎 敬子 (単独)										
ナンバリングコード	JA-L201-000	授業科目の 取扱い	面接授業科目													
卒業要件	選択															
授業のテーマ	現代社会の課題、SDGs (持続可能な開発目標)、課題解決、考察、プレゼンテーション															
授業概要	現代社会が抱える諸課題について理解し、考察を深める。課題解決に向けて、グループで協働しながら解決策を見出す。プレゼンテーションを通して解決策を共有し、ディスカッションを重ねてブラッシュアップを図る。															
到達目標	1. 現代社会が抱える諸課題について、理解した上で考察を深めることができる。 2. 課題解決について、多角的かつ客観的な視点で分析・考察することができる。 3. 課題解決のための方策について、主体的に意見を提案しながらディスカッションすることができる。 4. グループで協働しながら解決のための方策についてまとめ、プレゼンテーションで効果的に伝えることができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	◎	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 「考察」することの意味					1	面接									
	2. 現代社会の特性					1,2	面接									
	3. 自己の視点から捉えた現代社会					1,2	面接									
	4. SDGsの目標について(課題の理解)					1	面接									
	5. SDGsの目標について(課題解決について考察)					1,2,3	面接									
	6. SDGsの目標について(解決方策について発表)					4	面接									
	7. SDGsの目標について(課題の理解)					1,2	面接									
	8. SDGsの目標について(課題解決について考察)					1,2,3	面接									
	9. SDGsの目標について(解決方策について発表)					4	面接									
	10. 具体的な課題についての考察Ⅰ					1,2,3,4	面接									
	11. 具体的な課題についての考察Ⅱ					1,2,3,4	面接									
	12. 具体的な課題についての考察Ⅲ					1,2,3,4	面接									
	13. 具体的な課題についての考察Ⅳ					1,2,3,4	面接									
	14. 具体的な課題についての考察Ⅴ					1,2,3,4	面接									
	15. まとめ					1,2,3	面接									
定期試験																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク															
成績評価基準	評価の方法：①定期試験(50%) ②グループ活動記録・授業レポート(20%) ③プレゼンテーション(20%) ④授業態度・授業への参加度(10%)により、総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：授業で取り上げた内容に関する問題に解答できる。 ②知識・理解及び関心・意欲：授業内容や活動をフィードバックしながら、まとめることができる。 ③思考・判断及び表現：テーマについて、協働しながら調査研究し、効果的にプレゼンテーションできる。 ④関心・意欲及び態度：授業テーマに関心を持ち、自分事として捉えながら、積極的に活動できる。															
フィードバックの方法	授業ごとに内容や活動について振り返りを行って共有するとともに、質問には適宜答えていく。															
時間外の学習について	予習：毎回の授業内容・参考文献について情報収集(各回90分程度) 復習：グループ活動記録・授業レポートの作成(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：プリント配付 参考書：テーマごとに関連書籍を紹介 参考資料：関連する資料を配付															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	これからの人生を豊かに生きるため、現代社会への関心を高め、積極的に課題解決を図ろうとする姿勢を培いましょう。 Email:ozaki@yamaguchi-jca.ac.jp (尾崎)															

科目名	文学 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 後期	担当者	久保田 京子(実務経験) (単独)										
ナンバリングコード	JA-L202-000	授業科目の 取扱い	面接授業科目													
卒業要件	選択															
授業のテーマ	日本文学史、概論、文学知識、山口県ゆかりの文学者、ふるさとと文学															
授業概要	「日本文学史」を概観(古典から近代)することでその流れを学び、教養を身につける。さらに授業で培った知識や思考力をもとに、山口県ゆかりの文学者について調査研究をし、その成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。															
到達目標	1. 人口に膾炙した作品を中心に日本文学史について学び、知識と教養を身につけることができる。 2. 山口県に関連のある文学作品及び文学者(古典～近代)について理解を深めることができる。 3. 文学館・図書館・ITを活用した課題研究をし、その成果をプレゼンテーションすることができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	◎	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画				目標	方法											
	1. 日本文学史の概略・テキストの説明			1.2	面接											
	2. 「古事記」の時代と「古事記」にみる山口県			1.2	面接											
	3. 「万葉集」の歌人たちと「万葉集」に読まれた山口県			1.2	面接											
	4. 古今和歌集」と日本の四季			1.2	面接											
	5. 平安女流文学の隆盛			1.2	面接											
	6. 軍記文学と中世説話集等			1.2	面接											
	7. 近世俳諧の成立			1.2	面接											
	8. 浄瑠璃と歌舞伎にみる伝統			1.2	面接											
	9. 近世の散文(読みもの)			1.2	面接											
	10. ふるさとの文学者① 小説			1.2.3	面接											
	11. ふるさとの文学者② 詩			1.2.3	面接											
	12. ふるさとの文学者③ 俳句			1.2.3	面接											
	13. ふるさとの文学者④ 童謡			1.2.3	面接											
	14. 日本文学の展望			1.2.3	面接											
15. 文学レポートのプレゼンテーション			1.2.3	面接												
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、ロールプレイ															
成績評価基準	評価の方法：①授業プリント・レポート(30%)②授業態度・参加度(30%) ③復習小テスト(30%)④発表(10%)により、総合的に評価する。 評価の基準：①・③知識・理解、思考・判断、表現：基礎知識が身につく、調査研究等をもとに自説をまとめた文章で表現できる。 ②関心・意欲、態度：課題に意欲的に取り組み、積極的かつ主体的に学習活動に取り組むことができる。															
フィードバックの方法	毎時間の提出授業プリントは添削指導し、各自の良さを伝える。小テストの実施により各自の課題を共有し、次授業に生かす。															
時間外の学習について	予習：「予習シート」によりテキストの読解・要約(各回90分程度) 復習：授業プリントをファイルに整理し(ポートフォリオ)、課題研究の準備(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：「日本文学史」小西甚一著 講談社学術文庫 参考書： 参考資料：毎時、授業プリント配布															
実務経験について	教職経験(高校・国語)、行政職経験(文化振興)：文化振興に携わった経験から、ふるさと山口の文学者について興味関心が広がるよう話をします。															
担当者からのメッセージ等	日本文学史やふるさと山口の文学者について学び、理解することで、暮らしの中で芸術表現を感得できる感性を磨きましよう。授業プリントや作成した文学レポートはポートフォリオとして振り返りや課題発見の一助として活用しましょう。担当者の連絡先・メールアドレス T0001@yamaguchi-jca.ac.jp (久保田)															

科目名	暮らしと法 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 後期	担当 者	原田 剛 (単独)										
ナンバリングコード	JA-L203-000	授業科目の 取 扱 い	面接授業科目													
卒業要件	選択															
授業のテーマ	社会人にふさわしい教養 主体的に社会の変化に適応															
授業概要	主に六法(憲法、刑法、民法、商法(会社法)、刑事訴訟法、民事訴訟法)について学び、社会生活で起こりうる具体的な問題例を取り上げ考察する。															
到達目標	1. 法律の基礎知識を身に付ける。															
	2. 社会生活上の諸問題に対してリーガルマインドを持って対応できる。															
	3. 人権を尊重し社会人として責任ある行動がとれる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	◎	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	◎
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 社会生活と社会規範					1,2,3	面接									
	2. 社会規範としての法					1	面接									
	3. 憲法①(人権が制限される幸せな社会?)					1,2,3	面接									
	4. 憲法②(人権は誰かにもらうもの?)					1,2,3	面接									
	5. 憲法③(「私の自由」と「みんなの幸せ」)					1,2,3	面接									
	6. 憲法④(三権分立の真の意味)					1,2	面接									
	7. 憲法⑤(お互い足を引っ張り合う制度)					1,2	面接									
	8. 民法・会社法と民事訴訟法①(「殺人契約」も有効?)					1,2	面接									
	9. 民法・会社法と民事訴訟法②(「勘違い」はどこまで許される?)					1,2	面接									
	10. 民法・会社法と民事訴訟法③(先買ったのに損をする!)					1,2	面接									
	11. 民法・会社法と民事訴訟法④(会社は誰のもの?)					1,2	面接									
	12. 民法・会社法と民事訴訟法⑤(「真実の発見」よりも大切なこと)					1,2	面接									
	13. 刑法と刑事訴訟法①(罰するべきか、見逃すべきか)					1,2	面接									
	14. 刑法と刑事訴訟法②(悪いのは「殺そうとした」から?)					1,2	面接									
	15. 刑法と刑事訴訟法③(悩める窃盗罪、刑事訴訟法が主役になる)					1,2,3	面接									
	◎定期試験															
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション															
成績評価基準	①定期試験(50%):知識・理解の測定 ②宿題・授業外レポート(30%):関心・意欲及び知識・理解の測定 ③授業態度・授業への参加度(20%):関心・意欲及び態度の測定															
フィードバックの方法	宿題・授業外レポートについては、毎回授業の最初に解説します。															
時間外の学習について	予習:事前にテキストを読んで要点をまとめ、疑問点を書き出しておく。(各回90分程度) 復習:授業内容についてレポートを作成し、提出する。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト:『日本一やさしい法律の教科書』品川皓亮【著】佐久間毅【監修】(日本実業出版社) 参考書:『もしも世界に法律がなかったら』本山泰嗣(日本実業出版社)など 参考資料:適宜新聞記事など配布															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	現代社会の課題について法的な見方や考え方を身に付けよう。 担当者の連絡先・メールアドレス tharada@yamaguchi-jca.ac.jp (原田)															

科目名	暮らしのなかの科学 (2単位)		講義	芸術表現学科	2年 前期	担当者	藤村慎一郎(実務経験) 山田 哲也(実務経験) (オムニバス)									
ナンバリングコード	JA-L204-000		授業科目の 取扱い	面接授業科目												
卒業要件	選択															
授業のテーマ	自然科学、自然現象、時間生物学、天体と宇宙、自然科学的な見方・考え方															
授業概要	自然の理解、自然科学の基本的な法則や現象の理解、そして身近な暮らしの中の現象に自然科学的な視点を養う授業である。人間は長い歴史の中で自然を知るために努力してきた。それは数学、物理学、化学、生物学、地学と広い分野に及ぶが、授業では、身近な自然現象・生命現象・気象現象・気候変動等の理解と対応力を養う。															
到達目標	1.自然科学の本質、科学的発想、科学の成果などを理解する。 2.身のまわりの自然現象に目を向け、科学的な視点及び自然科学に関する基本的な知識や概念を習得する。 3.自然科学的な見方・考え方など、自然と共生することの大切さを理解し、正しい自然観を身に付ける。 4.身近な自然現象としての気象現象や生命現象の知識を学び、自然災害への対応力を身に付ける。															
学修成果との関係	①	◎	②	・	③	◎	④	・	⑤	○	⑥	・	⑦	○	⑧	○
履修条件・注意事項	連携解説科目(保育科)															
授業計画							目標	方法								
	1. 序論：自然科学へのまなざし						(担当：山田)	1	面接							
	2. 力と運動、エネルギー						(担当：山田)	2,3	面接							
	3. 光や音、熱の科学						(担当：山田)	2,3	面接							
	4. 電気と磁気の働き						(担当：山田)	2,3	面接							
	5. 時間生物学とは						(担当：藤村)	2,3	面接							
	6. 時計遺伝子の科学						(担当：藤村)	2,3	面接							
	7. 生体リズムの科学						(担当：藤村)	2,3	面接							
	8. 睡眠の科学						(担当：藤村)	2,3	面接							
	9. 衣食住の科学						(担当：藤村)	2,3	面接							
	10. デジタル社会と健康の科学						(担当：藤村)	2,3	面接							
	11. 時空と宇宙						(担当：藤村)	2,3	面接							
	12. 様々な天体とその特徴						(担当：山田)	2,3	面接							
	13. 岩石・鉱物と身のまわりの地形や地質構造						(担当：山田)	2,3	面接							
	14. 気象現象にみる水や大気のかかわりと気候変動						(担当：山田)	2,3	面接							
15. 自然科学的な見方・考え方について						(担当：藤村)	4	面接								
アクティブ・ラーニング	各領域の特定のテーマについてディスカッションやグループワークなどを取り入れる。また、各回の授業の中で課題について、インターネットや図書等を利用したレポートを作成し、次回の講義において意見交換を行う。															
成績評価基準	評価の方法：①各回レポート及び最終課題(60%)、 ②授業時での内容理解や取組状況・ポートフォリオ等(40%)で総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断、関心・意欲：レポート・課題の量(字数)と質(回答の的確性)が適切である。 ②知識・理解、思考・判断、関心・意欲：授業及び授業内での活動において、積極的な参画により必要な知識を理解するとともに、適切な思考や判断が行われている。															
フィードバックの方法	毎回の課題に対するレポートについては時間内あるいは次週に解説する。															
時間外の学習について	予習：参考書や参考となるインターネット上のテキスト(北海道大学オープンコースウェア等)を閲覧する。(各回90分程度) 復習：授業において習得した内容についてまとめるとともに、更なる気づきや疑問点について調べる。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考資料等： https://ocw.hokudai.ac.jp/lecture/scienceliteracy/ (北海道大学オープンコースウェア：ゼロから始める科学力) 配布プリント、紹介図書・記事															
実務経験について	高等学校教員の経験をもとに、暮らしのなかの事物・現象やその要因の理解について科学の視点から支援します。															
担当者からのメッセージ等	暮らしのなかの科学に目を向け、抱いた疑問や不思議をもとに、図書やインターネット情報を活用して主体的に課題に取り組み、レポート作成やディスカッション等を通して、自分なりの自然科学的な見方・考え方を養ってください。 担当教員の連絡先メールアドレス： sfujimura@yamaguchi-jca.ac.jp (藤村)、 tyamada@gakugei.ac.jp (山田)															

科目名	体育 (1単位)	実技	芸術表現学科	2年 前期	担当者	原井 進(実務経験) 石川 美佳(実務経験) (オムニバス)										
ナンバリングコード	JA-L205-000	授業科目の 取扱い	面接授業科目													
卒業要件	選択															
授業のテーマ	体を動かすことの楽しさ、生涯スポーツ、レクリエーション、ピラティス、ダンス、コミュニケーション能力															
授業概要	本講義は、ダンス、球技、レクリエーション・スポーツを中心に運動する。 ダンスではストレッチやピラティスで体幹作りをしながら、表現力や美しい体のライン・踊る楽しさを学ぶ。 球技及びレクリエーション・スポーツでは、基礎技能の習得と簡易的なゲームを円滑に進められるように学習する。 合わせて、コミュニケーション活動を重視するとともに、事故や熱中症の防止等の基礎についても学習する。															
到達目標	1. 基本的なスポーツマナーとコミュニケーションを理解する (挨拶や基本的な社会性) 2. ピラティスやダンスの基本的な姿勢・技術を学び、日常生活で応用をする態度を養う 3. 基礎体力の向上や音楽に合わせて創造的な活動できることを目指し、計画的な取組により最後まで努力する 4. 球技及びレクリエーションの特性の理解と技能の習得する 5. スポーツ大会等の企画と運営ノウハウの習得する															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	◎	⑤	・	⑥	○	⑦	○	⑧	・
履修条件・注意事項	激しい運動ができるTシャツ、ハーフパンツ、ジャージ、スウェット等の服装で参加すること。(デニムは不可) タオル (汗拭きだけでなくピラティスでも使用する)、熱中症予防のための飲料水、着替え等を持参すること。															
授業計画				目標	方法											
	1. スポーツをする上での身なりと基本的なスポーツマナー とコミュニケーション (担当:原井)	1	面接													
	2. 基礎体力と筋力up と体幹作り (ピラティス) 若者の姿勢改善政策*運動不足の生徒は筋力低下、体の左右バランスの改善 (担当:石川)	2	面接													
	3. 柔軟性の向上 (ピラティスと音楽に合わせたバレエストレッチなど) (担当:石川)	2,3	面接													
	4. ピラティス & 創作ダンスに取り掛かる。(クラシックバレエやコンテンポラリーダンスなどの基本姿勢や動作を学ぶ&美しい体作りとステップの練習) (担当:石川)	2,3	面接													
	5. ピラティス & 創作ダンス1 (担当:石川)	2,3	面接													
	6. ピラティス & 創作ダンス2 (担当:石川)	2,3	面接													
	7. ピラティス & 創作ダンス3 (担当:石川)	2,3	面接													
	8. 作品完成発表 (担当:石川)	1,2,3	面接													
	9. 球技の基礎技能 (担当:原井)	1,3,4	面接													
	10. 球技のゲーム1 (担当:原井)	3,4	面接													
	11. 球技のゲーム2 (担当:原井)	3,4	面接													
	12. レクリエーション・スポーツの基礎技能 (担当:原井)	3,4	面接													
	13. レクリエーション・スポーツのゲーム (担当:原井)	3,4	面接													
	14. スポーツ大会の企画・運営1 (担当:原井)	1,3,4,5	面接													
15. スポーツ大会の企画・運営2 (担当:原井)	1,3,4,5	面接														
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・ロールプレイ															
成績評価基準	評価の方法:①授業への参加 (40%) ②授業中の課題 (40%) ③レポート (20%) 評価の基準:①関心・意欲:スポーツへの取り組みを重視する。 ②技能・表現:グループ学習や授業中の課題解決への取り組み及びその到達度を評価する。 ③知識・理解:テーマに対する論述から授業内容の理解度を評価する。															
フィードバックの方法	授業中に前回学んだ技能を復習する時間を確保する。															
時間外の学習について	予習:ルール学習 (各回45分程度) 復習:観る・する・調べるスポーツを楽しむ (各回45分程度)															
教材にかかわる情報	必要に応じて適宜配布															
実務経験について	実務経験 (コンテンポラリーダンス教室の講師) をもとにピラティス、コンテンポラリーダンスについて授業をします。(石川) 高校保健体育科教員の経験を活かし、基礎体力の向上やスポーツ、レクリエーションの楽しさを伝えていきます。(原井)															
担当者からのメッセージ等	ストレッチやピラティスで基礎体力UP。ダンスを通して体を使って表現する楽しさや自己アピール力を養って欲しい。(石川) 体を動かすことの楽しさを味わうだけでなく、生涯にわたって運動に親しむための基礎を培うとともに、健康寿命の延伸に資する実践力を身につけてほしい。(原井) E-mail: sharai@yamaguchi-jca.ac.jp (原井)															

科目名	英語コミュニケーションⅠ (2単位)	講義	芸術表現学科	1年 前期	担当 者	植村 隆(実務経験) (単独)										
ナンバリングコード	JA-L111-000	授業科目の 取扱い	面接授業科目													
卒業要件	選択															
授業のテーマ	英語 コミュニケーション															
授業概要	基礎的な英語コミュニケーションスキルを学びながら、英語活動に楽しく前向きに参加することを目指す。															
到達目標	1. 基礎的な英語表現を習得し、英語を使う自信をつける。 2. 自分のことを英語で話すことが出来るようになる。 3. 効果的に他の人と英語でコミュニケーションする方法を学ぶ。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	○	④	◎	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. Introduction and Classroom English					1,2,3	面接									
	2. Greetings and Active Listening					1,2,3	面接									
	3. Interviewing Classmates and Friends					1,2,3	面接									
	4. Talking about Classmates and Friends					1,2,3	面接									
	5. Thinking about Happiness					1,2,3	面接									
	6. Talking about Hobbies					1,2,3	面接									
	7. Talking about Experiences					1,2,3	面接									
	8. Talking about Future Dreams					1,2,3	面接									
	9. Study Strategies					1,2,3	面接									
	10. Giving Reasons					1,2,3	面接									
	11. Agreeing and Disagreeing					1,2,3	面接									
	12. Non-verbal Message and English Communication I					1,2,3	面接									
	13. Non-verbal Message and English Communication II					1,2,3	面接									
	14. Presentation I					1,2,3	面接									
15. Presentation II					1,2,3	面接										
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ、プレゼンテーション等															
成績評価基準	評価の方法：①宿題・授業外レポート(40%) ②受講者の発表(プレゼン)(30%) ③授業態度・授業への参加度(30%) 評価の基準：①知識・理解・態度・意欲・思考・判断 ②技能・表現・知識・理解・意欲 ③態度・意欲															
フィードバックの方法	レポート提出・プレゼン後に個別還元指導															
時間外の学習について	予習：指定されたLessonについて、事前に内容を確認しておく。各回90分程度 復習：既習のLessonの目標表現が円滑に使用できるように反復的に学習をする。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト：適宜配布 参考書：適宜紹介予定 参考資料：適宜配布															
実務経験について	国際ビジネス経験：企業現場で体得した効果的な英語コミュニケーションの方法を教育内容に活かしていきます。															
担当者からのメッセージ等	・英語が苦手な学生さんも、必要性を感じていたり、関心を少しでも持っていれば歓迎します。まずはアクティブ・ラーニングの中で間違えてもいいので恐れずに英語を使ってみましょう。 ・対面授業を基本としますが、状況によって同時双方向型の遠隔授業を実施する場合があります。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。 ・連絡先メールアドレス：T0040★yamaguchi-jca.ac.jp(送信時★を@にご変換 植村 隆)															

科目名	英語コミュニケーションⅡ (2単位)	講義	芸術表現学科	1年 後期	担当者	植村 隆(実務経験) (単独)										
ナンバリングコード	JA-L112-000	授業科目の 取扱い	面接授業科目													
卒業要件	選択															
授業のテーマ	英語 コミュニケーション															
授業概要	自分自身や身の回りのことについて基本的な英語で表現することができるようにする。															
到達目標	1.身近な話題について英語で表現できるよう必要な語彙・表現を身に付ける。															
	2.対話を通して、英語で積極的に話したり聞いたりする態度を身に付けることができる。															
	3.効果的に他の人と英語でコミュニケーションする方法を学ぶ。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	○	④	◎	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画											目標	方法				
	1. It's nice to meet you.										1,2,3	面接				
	2. Who are they talking about?										1,2,3	面接				
	3. When do you start?										1,2,3	面接				
	4. Where does this go?										1,2,3	面接				
	5. How do I get there?										1,2,3	面接				
	6. What happened?										1,2,3	面接				
	7. I'd love that job.										1,2,3	面接				
	8. What's playing?										1,2,3	面接				
	9. What are you going to do?										1,2,3	面接				
	10. How much is this?										1,2,3	面接				
	11. How do you make it?										1,2,3	面接				
	12. Listen to the music.										1,2,3	面接				
	13. Emphasizing Key Points										1,2,3	面接				
	14. Presentation I										1,2,3	面接				
15. Presentation II										1,2,3	面接					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ、プレゼンテーション等															
成績評価基準	評価の方法：①宿題・授業外レポート(40%) ②受講者の発表(プレゼン)(30%) ③授業態度・授業への参加度(30%) 評価の基準：①知識・理解・態度・意欲・思考・判断 ②技能・表現・知識・理解・意欲 ③態度・意欲															
フィードバックの方法	レポート提出・プレゼン後に個別還元指導															
時間外の学習について	予習：指定されたLessonについて、事前に内容を確認しておく。各回90分程度 復習：既習のLessonの目標表現が円滑に使用できるように反復的に学習をする。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト：(書名)『English Firsthand (5th Edition) Level I Student Book with MyMobileWorld』, (著者名) Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown (出版社) Pearson, (出版年) 2018 参考書：適宜紹介予定 参考資料：適宜配布															
実務経験について	国際ビジネス経験：：企業現場で体得した効果的な英語コミュニケーションの方法を教育内容に活かしていきます。															
担当者からのメッセージ等	・日常的な内容を主体としたレッスンですが、本コースでは、少しずつ英語で学習内容を理解する取り組みを行い、コミュニケーションにつなげていきます。アクティブ・ラーニングの中で実践的な英語を学んでいきましょう。 ・対面授業を基本としますが、状況によって同時双方向型の遠隔授業を実施する場合があります。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。 ・連絡先メールアドレス： T0040★yamaguchi-jca.ac.jp (送信時★を@にご変換 植村 隆)															

科目名	日本国憲法 (2単位)		講義	保育学科	2年 後期	担当者	香川 智弘 (単独)									
ナンバリングコード	JC-L208-110		授業科目の 取扱い	面接授業科目												
卒業要件	選択	免許・資格等との関係		保育士	選択	幼稚園教諭		必修								
免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園)																
教科目	教養科目(保育士)															
系列	教養科目															
授業のテーマ	広い見識 主体性 問題解決能力 社会人としての教養(態度・志向性、汎用的能力、創造的思考力)															
授業概要	平和国家・民主国家を目指す日本国憲法の基本理念・国民中心主義、それを具体化する国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の基本原則を学ぶ。その上で人権規定を中心に憲法の諸規定を学ぶ。さらに新しい人権についても学び、今日の社会の動向を知る。															
到達目標	1. 市民としての法感覚を養う。 2. 憲法の基本理念を知る。 3. 人権感覚を養う。 4. 憲法的視点から今日の社会を理解する。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	◎	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画							目標	方法								
	1. 日本国民の要件 国籍法						1,3,4	面接								
	2. 日本国憲法の目的、基本理念、基本原理①国民主権						1,2	面接								
	3. 日本国憲法の基本原則②平和主義、基本的人権の尊重						1,2,3	面接								
	4. 日本国憲法の人権規定①法の下での平等 平等とは、少年法、男女雇用機会均等法						1,3,4	面接								
	5. 日本国憲法の人権規定①法の下での平等 尊属殺重罰事件						1,3,4	面接								
	6. 日本国憲法の人権規定②精神的自由権 内心の自由、信教の自由、学問の自由						1,3,4	面接								
	7. 日本国憲法の人権規定②精神的自由権 表現の自由						1,3,4	面接								
	8. 日本国憲法の人権規定③身体的自由権						1,3,4	面接								
	9. 日本国憲法の人権規定④経済的自由権						1,3,4	面接								
	10. 日本国憲法の人権規定⑤参政権						1,3,4	面接								
	11. 日本国憲法の人権規定⑥生存権						1,3,4	面接								
	12. 新しい人権①生命に対する権利						1,3,4	面接								
	13. 新しい人権②プライバシーの権利						1,3,4	面接								
	14. 国民主権と統治機構①立法権、行政権						1,2,4	面接								
	15. 国民主権と統治機構②司法権、地方自治						1,2,4	面接								
◎定期試験																
アクティブ・ラーニング																
成績評価基準	評価の方法：①試験(80%) ②授業態度(20%) 評価の基準：①試験 *知識・理解を測定 ・教科書に載っている知識を扱った問題に回答できる ・応用レベルの問題に回答できる ②授業態度 *関心・意欲を測定 ・積極的に授業に参加し、発言する															
フィードバックの方法	理解度を確認するため小テストを行い、採点して返却する。															
時間外の学習について	予習：テキストを読んで理解する。90分程度 復習：学習内容をノートにまとめる。90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト：香川智弘「憲法講義」 参考書： 参考資料：プリントを配布する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	平素からニュースを確認し、社会の動きに興味・関心をもって下さい。 kagawa@y-gakugei.ac.jp															

科目名	知的財産法入門 (2単位)		講義	保育学科	2年 後期	担当者	長田 和美 (単独)									
ナンバリングコード	JC-L205-000		授業科目の 取扱い	面接授業科目												
卒業要件	選択	免許・資格等との関係		保育士	幼稚園教諭											
授業のテーマ	知的財産、著作権、特許、意匠、商標															
授業概要	自己の作品の創作や他人の作品を利用する際には、自己の権利の把握と他者の権利を尊重することが求められます。本科目では、社会人として知っておくべき、意識しておくべき教養として「知的財産」の基礎について学びます。															
到達目標	1. 知的財産の全体像を理解する。															
	2. 著作権、特許権、商標権、意匠権の基礎を理解する。															
	3. 教育・ビジネスにおける知的財産権の必要性を理解する。															
	4. 創作者側と利用者側の両方の立場で、知的財産権を意識して行動することができる。															
	5. JASRAC や J-platpat を活用して、知的財産に関する情報検索ができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	◎	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	◎	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画													目標	方法		
	1. 知的財産の全体像												1, 3, 4	面接		
	2. 著作権 (1) 著作物												2, 3, 4	面接		
	3. 著作権 (2) 著作者人格権												2, 3, 4	面接		
	4. 著作権 (3) 著作 (財産) 権												2, 3, 4	面接		
	5. 著作権 (4) 著作隣接権、二次的著作物												2, 3, 4	面接		
	6. 著作権 (5) 著作権の制限												2, 3, 4	面接		
	7. 著作権 (6) 著作権の制限												2, 3, 4	面接		
	8. パソコン演習 (1) 著作権・楽曲に関する情報検索												5	面接		
	9. 特許権												2, 3, 4	面接		
	10. パソコン演習 (2) 特許に関する情報検索												5	面接		
	11. 商標権 (1)												2, 3, 4	面接		
	12. 商標権 (2)												2, 3, 4	面接		
	13. パソコン演習 (3) 商標に関する情報検索												5	面接		
	14. 意匠権												2, 3, 4	面接		
	15. パソコン演習 (4) 意匠に関する情報検索												5	面接		
◎定期試験 (筆記、パソコン実技)																
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法：①定期試験 (50%) ②小レポート・ワークシート・宿題レポート (50%) 評価の基準：①定期試験 *知識・理解を測定 ②小レポート・ワークシート・宿題レポート *思考・判断、関心・意欲を測定															
フィードバックの方法	宿題レポートについては、次の講義開始時に解答例を示し解説する。 小レポート等で質問があった際には講義時に回答する。															
時間外の学習について	予習：知的財産に関するニュースや話題に目を通し、社会と知的財産の関係を理解する。(各回90分程度) 復習：教科書 (授業で扱った範囲) を読み、宿題レポート、ワークシートに取り組む。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：「これからの知財入門 第4版」(ISBN978-4-296-20195-2)、日経BP社 参考書：なし 参考資料等：なし															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	連絡先：knagata@yamaguchi-jca.ac.jp															

科目名	文 学 (2単位)		講義	保育学科	2年 後期	担当者	久保田 京子(実務経験) (単独)									
ナンバリングコード	JC-L206-000		授業科目の 取 扱 い	面接授業科目												
卒業要件	選択	免許・資格等との関係		保育士		幼稚園教諭										
授業のテーマ	日本文学史、概論、文学知識、山口県ゆかりの文学者、ふるさとと文学															
授業概要	「日本文学史」を概観(古典から近代)することでその流れを学び、教養を身につける。さらに授業で培った知識や思考力をもとに、山口県ゆかりの文学者について調査研究をし、その成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。															
到達目標	1. 人口に膾炙した作品を中心に日本文学史について学び、知識と教養を身につけることができる。 2. 山口県に関連のある文学作品及び文学者(古典～近代)について理解を深めることができる。 3. 文学館・図書館・ITを活用した課題研究をし、その成果をプレゼンテーションすることができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	◎	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画													目標	方法		
	1. 日本文学史の概略・テキストの説明												1.2	面接		
	2. 「古事記」の時代と「古事記」にみる山口県												1.2	面接		
	3. 「万葉集」の歌人たちと「万葉集」に読まれた山口県												1.2	面接		
	4. 古今和歌集」と日本の四季												1.2	面接		
	5. 平安女流文学の隆盛												1.2	面接		
	6. 軍記文学と中世説話集等												1.2	面接		
	7. 近世俳諧の成立												1.2	面接		
	8. 浄瑠璃と歌舞伎にみる伝統												1.2	面接		
	9. 近世の散文(読みもの)												1.2	面接		
	10. ふるさとの文学者① 小説												1.2.3	面接		
	11. ふるさとの文学者② 詩												1.2.3	面接		
	12. ふるさとの文学者③ 俳句												1.2.3	面接		
	13. ふるさとの文学者④ 童謡												1.2.3	面接		
	14. 日本文学の展望												1.2.3	面接		
15. 文学レポートのプレゼンテーション												1.2.3	面接			
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク、ロールプレイ															
成績評価基準	評価の方法：①授業プリント・レポート(30%)②授業態度・参加度(30%) ③復習小テスト(30%)④発表(10%)により、総合的に評価する。 評価の基準：①授業プリント・レポート・③復習小テスト *知識・理解、思考・判断、表現を測定 ・基礎知識が身につく、調査研究等をもとに自説をまとめた文章で表現できる。 ②授業態度・参加度・④発表 *関心・意欲、態度を測定 ・課題に意欲的に取り組み、積極的かつ主体的に学習活動に取り組むことができる。															
フィードバックの方法	毎時間の提出授業プリントは添削指導し、各自の良さを伝える。小テストの実施により各自の課題を共有し、次授業に生かす。															
時間外の学習について	予習：「予習シート」によりテキストの読解・要約(各回90分程度) 復習：授業プリントをファイルに整理し(ポートフォリオ)、課題研究の準備(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：「日本文学史」小西甚一著 講談社学術文庫 参考書： 参考資料：毎時、授業プリント配布															
実務経験について	教職経験(高校・国語)、行政職経験(文化振興)：文化振興に携わった経験から、ふるさと山口の文学者について興味関心が広がるよう話をします。															
担当者からのメッセージ等	日本文学史やふるさと山口の文学者について学び、理解することで、暮らしの中で芸術表現を感じ得る感性を磨きましょう。授業プリントや作成した文学レポートはポートフォリオとして振り返りや課題発見の一助として活用しましょう。 担当者の連絡先・メールアドレス T0001@yamaguchi-jca.ac.jp (久保田)															

科目名	暮らしのなかの科学 (2単位)		講義	保育学科	2年 前期	担当者	藤村慎一郎(実務経験) 山田 哲也(実務経験) (オムニバス)									
ナンバリングコード	JC-L204-000		授業科目の 取扱い	面接授業科目												
卒業要件	選択	免許・資格等との関係		保育士	幼稚園教諭											
授業のテーマ	自然科学、自然現象、時間生物学、天体と宇宙、自然科学的な見方・考え方															
授業概要	自然の理解、自然科学の基本的な法則や現象の理解、そして身近な暮らしの中の現象に自然科学的な視点を養う授業である。人間は長い歴史の中で自然を知るために努力してきた。それは数学、物理学、化学、生物学、地学と広い分野に及ぶが、授業では、身近な自然現象・生命現象・気象現象・気候変動等の理解と対応力を養う。															
到達目標	1. 自然科学の本質、科学的発想、科学の成果などを理解する。 2. 身のまわりの自然現象に目を向け、科学的な視点及び自然科学に関する基本的な知識や概念を習得する。 3. 自然科学的な見方・考え方など、自然と共生することの大切さを理解し、正しい自然観を身に付ける。 4. 身近な自然現象としての気象現象や生命現象の知識を学び、自然災害への対応力を身に付ける。															
学修成果との関係	①	◎	②	・	③	○	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画								目標	方法							
	1. 序論：自然科学へのまなざし							(担当：山田 哲也)	1	面接						
	2. 力と運動、エネルギー							(担当：山田 哲也)	2,3	面接						
	3. 光や音、熱の科学							(担当：山田 哲也)	2,3	面接						
	4. 電気と磁気の働き							(担当：山田 哲也)	2,3	面接						
	5. 時間生物学とは							(担当：藤村慎一郎)	2,3	面接						
	6. 時計遺伝子の科学							(担当：藤村慎一郎)	2,3	面接						
	7. 生体リズムの科学							(担当：藤村慎一郎)	2,3	面接						
	8. 睡眠の科学							(担当：藤村慎一郎)	2,3	面接						
	9. 衣食住の科学							(担当：藤村慎一郎)	2,3	面接						
	10. デジタル社会と健康の科学							(担当：藤村慎一郎)	2,3	面接						
	11. 時空と宇宙							(担当：藤村慎一郎)	2,3	面接						
	12. 様々な天体とその特徴							(担当：山田 哲也)	2,3	面接						
	13. 岩石・鉱物と身のまわりの地形や地質構造							(担当：山田 哲也)	2,3	面接						
	14. 気象現象にみる水や大気のかかわりと気候変動							(担当：山田 哲也)	2,3	面接						
15. 自然科学的な見方・考え方について							(担当：藤村慎一郎)	4	面接							
アクティブ・ラーニング	各領域の特定のテーマについてディスカッションやグループワークなどを取り入れる。また、各回の授業の中で課題について、インターネットや図書等を利用したレポートを作成し、次回の講義において意見交換を行う。															
成績評価基準	評価の方法：①各回レポート及び最終課題(60%)、 ②授業時での内容理解や取組状況・ポートフォリオ等(40%)で総合的に評価する。 評価の基準：①各回レポート及び最終課題 *知識・理解、思考・判断、関心・意欲を測定 ・レポート・課題の量(字数)と質(回答の的確性)が適切である ②授業時での内容理解や取組状況・ポートフォリオ等 *知識・理解、思考・判断、関心・意欲を測定 ・授業及び授業内での活動において、積極的な参画により必要な知識を理解するとともに、適切な思考や判断が行われている。															
フィードバックの方法	毎回の課題に対するレポートについては時間内あるいは次週に解説する。															
時間外の学習について	予習：参考書や参考となるインターネット上のテキスト(北海道大学オープンコースウェア等)を閲覧する。(各回90分程度) 復習：授業において習得した内容についてまとめるとともに、更なる気づきや疑問点について調べる。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考資料等： https://ocw.hokudai.ac.jp/lecture/scienceliteracy/ (北海道大学オープンコースウェア：ゼロから始める科学力) 配布プリント、紹介図書・記事															
実務経験について	高等学校教員の経験をもとに、暮らしのなかの事物・現象やその要因の理解について科学の視点から支援します。															
担当者からのメッセージ等	暮らしのなかの科学に目を向け、抱いた疑問や不思議をもとに、図書やインターネット情報を活用して主体的に課題に取り組み、レポート作成やディスカッション等を通して、自分なりの自然科学的な見方・考え方を養ってください。 担当教員の連絡先メールアドレス：(藤村) sfujimura@yamaguchi-jca.ac.jp (山田) tyamada@y-gakugei.ac.jp															

科目名	情報処理 (2単位)	講義	保育学科	1年 前期	担当者	山本 瑞恵 (単独)										
ナンバリングコード	JC-L102-110	授業科目 の 取扱い	面接授業科目													
卒業要件	必修	免許・資格等との関係	保育士	選択	幼稚園教諭	必修										
免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園)																
教科目	教養科目(保育士)															
系列	教養科目															
授業のテーマ	保育業務の効率化を図るため、情報化社会で必要となる情報リテラシー、倫理、セキュリティについて習得する(汎用的能力)															
授業概要	電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、基本的なアプリケーションを使った文書作成(Word)、表計算(Excel)、プレゼンテーション(PowerPoint)などの演習を行う															
到達目標	1. USBメモリの取り扱い及び電子メールでのやりとり、添付ファイルの送付、受信メールの添付ファイルの保存などができる 2. 情報を取り扱う際の倫理やセキュリティを十分に理解し、ネットワークを活用できる 3. 文書作成、表計算、プレゼンテーションを理解し、活用できる															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	◎	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画											目標	方法				
	1. 機器の取り扱い(USBメモリの取り扱い、Windowsの基本操作・基礎知識・インターネット接続と電子メールの設定)										1	面接				
	2. 情報セキュリティ、情報検索の活用、情報倫理										2	面接				
	3. 文書作成(Wordの基本操作)、簡単な描画作成										3	面接				
	4. 文書作成(書式、図・表の挿入)										3	面接				
	5. 複雑な文書作成その1										3	面接				
	6. 複雑な文書作成その2 Word課題										3	面接				
	7. 表計算(作表と簡単な計算、Excelの基本操作)										3	面接				
	8. 表計算(離型シートの作成及びその利用)										3	面接				
	9. 表計算(データベースの作成、関数の利用、データ抽出)										3	面接				
	10. 表計算(グラフの作成、複雑な関数の利用) Excel課題										3	面接				
	11. プレゼンテーション(PowerPointの基本操作)										3	面接				
	12. プレゼンテーション(スライド作成、アニメーションの設定、動画・音楽の挿入)										3	面接				
	13. プレゼンテーション PowerPoint課題										3	面接				
	14. プレゼンテーション(発表その1 質疑応答)										3	面接				
15. プレゼンテーション(発表その2 質疑応答)										3	面接					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーションと質疑応答(学生主体)を行う															
成績評価基準	評価の方法:毎回の宿題レポート(印刷物と添付ファイルの提出)(70%)プレゼンテーション(30%) 評価の基準:○宿題レポート *知識・理解を測定 ・授業内容を理解し、アプリケーションを使用できる ○授業でのプレゼンテーション *知識・理解、関心・意欲を測定 ・アプリケーションを活用し、積極的なプレゼンテーションを実施できる															
フィードバックの方法	プレゼンテーションは全員が行う。各発表者に対しコメントを加える。															
時間外の学習について	予習:次の授業範囲を確認し、テキスト及び授業資料に目を通しておく。(90分) 復習:演習課題結果の評価を通して授業内容の復習を行う。(90分)															
教材にかかわる情報	テキスト:「保育者のためのパソコン講座 windows10/8.1/7 対応版」 阿部正平・阿部和子・二宮祐子 萌文書林 参考書:適宜授業内で紹介する。 参考資料:その他添付ファイルで個別に送信及び授業内で印刷物を配布															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	4GB以上のUSBメモリを用意し、教科書・筆記用具・スマートフォンと一緒に授業に毎回持ってくる 担当者の連絡先・E-mailは授業内で周知します。															

科目名	文書表現基礎 (2単位)	講義	保育学科	1年前期	担当者	久保田 京子(実務経験) (単独)										
ナンバリングコード	JC-L103-010	授業科目の 取扱い	面接授業科目													
卒業要件	必修	免許・資格等との関係	保育士	選択		幼稚園教諭										
教 科 目	教養科目(保育士)															
系 列	教養科目															
授業のテーマ	文書作成基礎、文章表現力、文書作成演習、敬語、保育現場の文書															
授業概要	社会人として必要な文章表現力や保育現場で必要となる文書作成の知識やルールなどについて、演習やディスカッションを通じて実践的に学び、基礎力を身につける。(態度・志向性、汎用的能力)															
到達目標	1.文章表現の基礎知識と表現力及び教養を身につけることができる。 2.レポート等の作成など、大学生活で必要な文章作成力の向上を図ることができる。 3.職業生活に必要な各種文書の基礎を実践的に身につけることができる。															
学修成果との関係	①	◎	②	○	③	◎	④	◎	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	状況により遠隔授業を併用することもある															
授業計画											目標	方法				
	1. 文書表現概論(学ぶことの意義、必要性)										1.2.3	面接				
	2. 文章表現の基礎(構成、文体、慣用句等)										1.2	面接				
	3. わかりやすい文について(事実と意見・考察の区別、要約、5W3H)										1.2	面接				
	4. 敬語の基本と実践										1.3	面接				
	5. 挨拶文・礼状等の書き方と社交文書の基本										1.3	面接				
	6. 電子メールのルールとマナー										1.3	面接				
	7. レポートや論文の書き方の基本										1.2	面接				
	8. 実践的な文書の書き方(1) 文書の種類と基本書式										1.3	面接				
	9. 実践的な文書の書き方(2) 依頼文、照会文等										1.3	面接				
	10. 実践的な文書の書き方(3) 電話メモ、会議録等										1.3	面接				
	11. 自己紹介文、エントリーシート作成の基本										1.2	面接				
	12. 保育実習や業務に係る文書の書き方(1)										1.2.3	面接				
	13. 保育実習や業務に係る文書の書き方(2)										1.2.3	面接				
	14. 保育実習や業務に係る文書の書き方(3)										1.2.3	面接				
15. 「保育現場に必要な文章力」(冊子)、「紹介したい絵本」(冊子)の作成										1.2.3	面接					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイ															
成績評価基準	評価の方法:①授業プリント・レポート(30%)②授業態度・参加度(30%)③復習小テスト(30%)④発表(10%)により、総合的に評価する。 評価の基準:①授業プリント・レポート・③復習小テスト *知識・理解・技能・表現を測定 ・文書作成の基礎が身につく、習得した知識の活用ができる。 ②授業態度・参加度・④発表 *関心・意欲・態度を測定 ・ディスカッション・発表等において、積極的に発問や発言ができています。															
フィードバックの方法	毎時間の授業プリントは添削指導し、各自の良さを伝える。小テストの実施により各自の課題を共有し、次授業に生かす。															
時間外の学習について	予習:テキスト練習問題や配布プリントの事前学習(各回90分程度) 復習:授業プリントをファイルに整理し(ポートフォリオ)、課題を実施(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト:「ビジネス文書実務 改訂版」石井典子・三村善美著 早稲田教育出版 参考書: 参考資料等:毎時、授業プリント配布。															
実務経験について	教職経験(高校・国語)、行政職経験:文書作成や文章表現について、職場や社会で活用できるよう実践的に指導を行います。															
担当者からのメッセージ等	保育に携わる職業人として、文章表現によるコミュニケーション力を磨き、様々な文書作成の基礎を身につけましょう。授業プリントや授業で作成する冊子はポートフォリオとして振り返りに使い、学びの成果として卒業後も活用しましょう。 担当者の連絡先・メールアドレス T0001@yamaguchi-jca.ac.jp															

科目名	進路研究 (2単位)		講義	保育学科	2年 前後期	担当者	永田 実穂 他 (複数)									
ナンバリングコード	JC-L207-010		授業科目の 取扱い	面接授業科目												
卒業要件	選択	免許・資格等との関係		保育士	選択	幼稚園教諭										
教科目	教養科目(保育士)															
系列	教養科目															
授業のテーマ	自らの人生や進路について考え、自己実現に向けて主体的に取り組む(態度・志向性、汎用的能力、創造的思考力)															
授業概要	進路決定に至るまでに、自らが求める職業について考え主体的に研究する。社会人基礎力について学ぶとともに、社会人として必要なマナーや事柄について理解する。また、就職のために必要な事柄について段階を踏みながら演習を繰り返し実践力をつけていく。															
到達目標	1. 自己を見つめ正しく認識する。															
	2. 自分自身の生き方を考え、進路について主体的に考える力を身につける。															
	3. 保育者の職務内容について理解する。															
	4. 履歴書作成、就職支援講座を通して実践的な進路開拓の力を身につける。															
	5. 社会人として必要な教養やマナー、コミュニケーション力を身につける。															
学修成果との関係	①	◎	②	・	③	◎	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画								目標	方法							
	1. 働くということを考える(ライフプランニング)							1,2	面接							
	2. 社会が求める資質・能力、本学のディプロマ・ポリシーを考える(社会人基礎力について)							1,2,3,5	面接							
	3. 進路希望種別の情報を収集する(公立・幼稚園・保育所・認定子ども園・施設・一般)							2,3,4	面接							
	4. 就職支援講座①(就職活動のマナーについて)							2,4,5	面接							
	5. 求人票の見方、および自己分析、自己理解の上での自己PR、履歴書の作成							1,2,3,4	面接							
	6. 就職試験に必要な一般教養、時事問題、論作文の書き方							1,2,3,4	面接							
	7. 就職活動に必要な手紙、添え状やメールの書き方							4,5	面接							
	8. 話し方講座(面接や人前での言葉遣い、話し方についての講義、模擬面接)							4,5	面接							
	9. 特別講義①社会が求める人材について							1,2	面接							
	10. 自己評価、自己分析を行い進路希望の明確化を図る。夏休み中の就職活動について							1,2,3,4	面接							
	11. 社会人として必要な一般教養や手紙、電話の応対について							4,5	面接							
	12. 世代に応じたコミュニケーション力を身につける							2,5	面接							
	13. 特別講義②保育職に関する講義							1,2,3,4,5	面接							
	14. 社会人(保育職・一般)に必要な倫理観とマナーについて							1,2,3,5	面接							
15. まとめ(自己理解と社会人としての心構え)							1,2,3,5	面接								
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、ロールプレイ															
成績評価基準	<p>評価の方法：①授業への取り組み(20%) ②論作文や特別講義等のレポート(30%) ③小テスト(漢字、用語、時事問題、一般教養等)(50%)</p> <p>評価の基準：①関心・意欲、態度、思考・判断：積極的にグループワークを行うことができる。 ロールプレイで適切な対応ができる。</p> <p>②思考・判断、技能・表現：特別講義等を聴いて、自分の将来について真摯に向き合い主体的に考え書くことができる。</p> <p>③知識・理解：社会人として必要な一般常識や教養などの問題に回答できる。論作文を書くことができる。 履歴書の書き方や社会人として必要なメールや手紙を書くことができる。</p>															
フィードバックの方法	レポートの添削や小テストを返却し、コメントの記入や個人指導を行う															
時間外の学習について	<p>予習：ドリルブックを行う(各回90分程度)</p> <p>復習：小テストの復習および、講義内容を整理し実践できるようにする。(各回90分程度)</p>															
教材にかかわる情報	<p>テキスト：就職ガイドブック 一般常識問題ドリルブック</p> <p>参考書：幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領</p>															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	自分の将来について真剣に考え主体的に取り組ましましょう。連絡先メールアドレスは、授業内で周知する。															

科目名	英語コミュニケーション (2単位)		演習	保育学科	2年 後期	担当者	ダグラス・パーキン(実務経験) (単独)									
ナンバリングコード	JC-L111-110		授業科目の 取扱い	面接授業科目												
卒業要件	必修	免許・資格等との関係		保育士	必修	幼稚園教諭		必修								
免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園)																
教科目	教養科目(保育士)															
系列	教養科目															
授業のテーマ	英語 コミュニケーション 保育士に必要な英語に重点を置いて学ぶ(汎用的能力)															
授業概要	将来英語を教えるのに必要な技術を学ぶと共に個々の英語能力も高める															
到達目標	1. 個々の英語力を高め、自信をもって英語を使う。															
	2. 異なる西洋の歌を用いて、外国の文化をよりよく理解し、テーマに沿って英語で表現する。															
	3. 英語を使用して他者の前で話すスキルを向上させる。															
	4. 外国音楽の鑑賞を通して、自らが感じたことを英語で表現する。															
学修成果との関係	①	○	②	○	③	○	④	◎	⑤	○	⑥	.	⑦	.	⑧	◎
履修条件・注意事項	気持ちを楽に持って、英語を学ぶことを楽しんでほしい。ノートと辞書は必ず授業に持参すること。 授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業(同時双方向)の併用															
授業計画								目標	方法							
	1. Course Introduction + Student/Teacher Introductions + Example Introduction Lesson							1,2,3	面接							
	2. Tell Me More Language Software + Review Introduction Lesson + Student Introduction Lessons							1,2,3,4	面接							
	3. Classroom English + Student Lessons							1,2,3,4	面接							
	4. ABCs + Student Lessons							1,2,3,4	面接							
	5. Body Parts + Student Lessons							1,2,3,4	面接							
	6. Animals + Student Lessons							1,2,3,4	面接							
	7. Emotions + Student Lessons							1,2,3,4	面接							
	8. Numbers + Student Lessons							1,2,3,4	面接							
	9. Colors + Student Lessons							1,2,3,4	面接							
	10. Fruits + Student Lessons							1,2,3,4	面接							
	11. Body Parts + Student Lessons							1,2,3,4	面接							
	12. Holidays /Special Days + Student Lessons							1,2,3,4	面接							
	13. Pair (Team) Student Teaching Tests Week 1							4	面接							
	14. Pair (Team) Student Teaching Tests Week 2							4	面接							
15. Final Class - Review Course							1	面接								
アクティブ・ラーニング	Students are active throughout the course by using Question Crazy Cards to talk to faculty members in English, using English learning software to practice at their own pace, participating in and teaching mini lessons, teaching a final team teaching 25 minute lesson to the class, and also writing reflections at the end of the course in English. グループワーク															
成績評価基準	評価の方法：①授業態度(10%)、②Tell Me More(PCソフト)(10%)、③Question Crazy Cards(10%)、 ④各授業終わりの模擬授業(In Class Teaching)(10%)、⑤学期末に配られるReflections(5%)、⑥最終試験(55%) 評価の基準：①関心・意欲：積極的に発言する、グループ・ペアワーク等に積極的に取り組む。 ②知識・理解・技能・表現：PCソフトの学習・理解、表現を理解し、運用できる。 ③関心・意欲・技能・表現：教職員に英語で質問し、会話することができる。 ④関心・意欲、思考・判断：英語で計画を立て、英語でプレゼンテーションを行う。 ⑤関心・意欲：自分自身の取り組みを内省し、課題を見つける。 ⑥知識・理解：英語表現を理解し、運用できる。															
フィードバックの方法	発表に対して、学生相互に気づきを共有し、さらに教員から学生個々に対する指導・助言を行う。 Tell Me Moreに対する指導・評価は、学生個々の進度に応じて適宜行う。															
時間外の学習について	予習：前回の授業の復習を確認するとともに、授業で出された課題を実施する。(90分) 復習：配られたレッスン計画を利用して授業を復習。その日習った単語を全て調べ覚える。(90分)															
教材にかかわる情報	テキスト：None needed - Materials Provided by instructor 参考書：None needed. 参考資料：Questions Crazy Cards, and Tell Me More Log Sheets															
実務経験について	英語を母国語とする教師として、日本の保育園、小・中・高・大学での20年以上の指導経験を生かし、アウトプット活動を中心とした授業などを通して、英語教師としての専門的な教育を指導します。															
担当者からのメッセージ等	It is recommended that all students regardless of their English backgrounds should come with an open mind and learn to enjoy English so they may pass the same enjoyment to their students in the future. E-mail : parkin@y-gakugei.ac.jp															

科目名	体育（講義） （1単位）	講義	保育学科	2年 後期	担当者	原井 進（実務経験） （単独）										
ナンバリングコード	JC-L221-110	授業科目の 取 扱 い	面接授業科目													
卒業要件	必修	免許・資格等との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修										
免許法施行規則第66条の6に定める科目（幼稚園）																
教科目	教養科目（保育士）															
系 列	教養科目															
授業のテーマ	発育発達の特徴、運動の特徴、運動好き、安心・安全、事故防止、救急法、熱中症の予防															
授業概要	幼児期の子どもたちにはなぜ運動が必要なのか、また、発育発達の特徴に応じた運動とはどんな運動なのか等について、「幼児期運動指針ガイドブック」を用いて理解を深めるとともに、実践力の裏付けとなる基本的な知識を修得する。（態度・志向性、汎用的能力、専門的知識、創造的思考力）															
到達目標	1. 体育・スポーツの変遷を理解する 2. 発育発達の特徴と運動との関係を理解する 3. 運動の特徴を踏まえた運動の楽しさを理解する 4. 体育的活動中の事故防止への配慮事項等を理解する															
学修成果との関係	①	◎	②	・	③	○	④	・	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 体育・スポーツの変遷、発育発達の特徴					1	面接									
	2. 子どもの体力の現状と課題					1 2	面接									
	3. 運動の特徴					2 3	面接									
	4. 幼児期における運動の重要性					2 3	面接									
	5. 発達の段階に応じた運動					2 3 4	面接									
	6. 体育活動中の事故の現状と事故防止					2 3 4	面接									
	7. 学校管理下における重大事故の発生状況及び防止対策					2 3 4	面接									
	8. 体育活動中の事故を実例から学ぶ					2 3 4	面接									
試験																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク															
成績評価基準	評価の方法：①授業への参加・意欲（10%）、②レポート（10%）、③試験（80%） 評価の基準：①授業への参加・意欲 ＊関心・意欲、態度を測定 ・ディスカッション等において、積極的に発問や発言ができる。 ②レポート・③試験 ＊知識・理解を測定 ・授業で取り上げた理論や知識を扱ったレポート等を作成できる。															
フィードバックの方法	授業中に前回学んだ知識を復習する時間を確保する。															
時間外の学習について	予習：適宜指示する（45分） 復習：授業の課題を実践する（45分）															
教材にかかわる情報	テキスト：幼児期運動指針ガイドブック、文部科学省、株式会社サンライフ企画 参考書： 参考資料：「JASP-ACP アクティブ チャイルド プログラム」、公益財団法人日本スポーツ協会															
実務経験について	高校保体科教員及び教育委員会事務局職員での経験を活かして、体力向上及び事故防止の視点について話をします。															
担当者からのメッセージ等	健康・安全に配慮するとともに、子どもを運動好きにするための知識を保育の現場に生かしてほしい。 E-mail：sharai@yamaguchi-jca.ac.jp															

科目名	体育(実技) (1単位)	実技	保育学科	1年 後期	担当者	吉野 信朗 (単独)												
ナンバリングコード	JC-L121-110	授業科目の 取扱い	面接授業科目															
卒業要件	必修	免許・資格等との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修												
免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園)																		
教科目	教養科目(保育士)																	
系 列	教養科目																	
授業のテーマ	スポーツや表現活動を通じて、協調性やコミュニケーション能力を身に付ける(汎用的能力)																	
授業概要	球技では、基礎技能とコミュニケーション活動を中心に、ゲームを円滑に進められるように学習する。表現運動では、身体を通じた自己表現することや空間を活かした表現をする。また互いに鑑賞し、他者評価し相互理解を行う。ボウリングは国体にも採用されており、生涯スポーツとしても人気のスポーツである。総じて様々なスポーツの経験を得ることを目標とする。																	
到達目標	1. 基礎的なスポーツマナーを理解する 2. バレーボールの理解と技術の習得 3. 卓球の理解と技術の習得 4. バドミントンの理解と技術の習得 5. ダンス・体操の理解と技術の習得																	
学修成果との関係	①	・	②	・	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・		
履修条件・注意事項	運動のできる服装で参加すること。																	
授業計画																	目標	方法
	1. スポーツをする上での身なりと基礎的なスポーツマナー																1	面接
	2. バレーボールの基礎技能(パス・サーブ)																2	面接
	3. バレーボールの応用技能(フォーメーション)																2	面接
	4. バレーボールのゲーム1 基礎																2	面接
	5. バレーボールのゲーム2 試合																2	面接
	6. 卓球の基礎技能(サーブ・ラリー)																3	面接
	7. 卓球のゲーム1 基礎																3	面接
	8. 卓球のゲーム2 試合																3	面接
	9. バドミントンの基礎技能(サーブ・ラリー)																4	面接
	10. バドミントンのゲーム1 基礎																4	面接
	11. バドミントンのゲーム2 試合																4	面接
	12. 体操・身体表現者としてのダンス																5	面接
	13. 創作ダンス(ダンス作成)																5	面接
	14. 創作ダンス(ダンス練習)																5	面接
15. 創作ダンス(発表)																5	面接	
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・ロールプレイ																	
成績評価基準	評価の方法:①授業への参加(20%)②授業中の課題(60%)③レポート(20%) 評価の基準:①関心・意欲:スポーツへの取り組みを重視する。 ②関心・意欲、思考・判断:グループ学習や授業中の課題解決への取り組み及びその到達度を評価する。 ③知識・理解、思考・判断:テーマに対する論述から授業内容の理解度を評価する。																	
フィードバックの方法	授業中に前回学んだ技能を復習する時間を確保する。																	
時間外の学習について	予習:ルール学習(各回15分程度) 復習:観る・する・調べるスポーツを楽しむ(各回45分程度)																	
教材にかかわる情報	テキスト:必要に応じて適宜配布する。 参考書: 参考資料:																	
実務経験について																		
担当者からのメッセージ等	人数や気候によっては、一部内容を変更することがあります。 担当教員の連絡先・メールアドレス n-yoshi@able.ne.jp(吉野)																	